

全体発表会 発表要旨

～ブロックリーダー研究大会の報告～

1. 北海道・東北ブロック
2. 関東ブロック
3. 北信越ブロック
4. 東海ブロック
5. 近畿ブロック
6. 中国ブロック
7. 四国ブロック
8. 九州ブロック

北海道・東北ブロック（山形県）

事業名	第10回北海道／東北ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会																																			
会場	山形県総合運動公園（天童市） 総合体育館 山形県天童市長岡公民館																																			
期日	平成18年11月3日（金）～5日（日）																																			
都道府県名 及び参加者数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>都道府県</th> <th>リーダー</th> <th>育成担当者</th> <th>都道府県</th> <th>リーダー</th> <th>育成担当者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>山形県</td> <td>15</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>青森県</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>宮城県</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>秋田県</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>福島県</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>岩手県</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>計</td> <td>34</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>						都道府県	リーダー	育成担当者	都道府県	リーダー	育成担当者	北海道	4	2	山形県	15	6	青森県	1	1	宮城県	2	2	秋田県	5	1	福島県	4	1	岩手県	3	1	計	34	14
都道府県	リーダー	育成担当者	都道府県	リーダー	育成担当者																															
北海道	4	2	山形県	15	6																															
青森県	1	1	宮城県	2	2																															
秋田県	5	1	福島県	4	1																															
岩手県	3	1	計	34	14																															

○プログラム

第10回北海道・東北ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会日程表

1日目 11月3日(金)		2日目 11月4日(土)		3日目 11月5日(日)	
6:00		起床・清掃	会宿所	起床・清掃	会宿所
6:30		朝のつどい		朝のつどい	
7:00		朝食	レストラン	朝食	レストラン
8:00		活動準備		活動準備	
8:30		ディスカッション②	P1会議室 C1会議室 A1会議室	ディスカッション④ P1会議室 C1会議室 A4会議室	
9:00				全体発表会	P1会議室
9:30				閉会式	P1会議室
10:00					
10:30					
11:00					
11:30					
12:00		昼食	レストラン		
12:30					
13:00					
13:30	受付				
14:00	開会式	P1会議室			
14:30	オリエンテーション	P1会議室			
15:00			移動		
15:30					
16:00	アイスブレイキング	多目的コート			
16:30					
17:00					
17:30	夕食	レストラン	野外活動 (そば打ち体験)	天童市 長岡 公民館	
18:00					
18:30			移動		
19:00					
19:30	報告会				
20:00	ディスカッション①	P1会議室 大会議室	交歓交流会	創造場	
20:30					
21:00	入浴		入浴		
21:30	自由交歓	会宿所	自由交歓	会宿所	
22:00					
22:30	就寝・消灯		就寝・消灯		
23:00					

○運営体制・方法

北海道・東北ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会の開催期日や会場、大まかなプログラムについては、平成17年度から準備。

研究大会の準備及び運営は、主にリーダー会が中心となり、指導者からは準備や運営において隨時アドバイスを貰い進めた。

研究大会の開催時期や会場を一番最初に決めるところから始めた。

研究大会に初めて参加するリーダーが大半だったため、大会準備を円滑に行うために、研究大会の目的やこれまでの経過、ディスカッションで決められたことの確認を行い、リーダー全員が共通意識を持つことから始めた。

事前研修として、一泊二日の研修を2回行い、プログラムを企画した後に各担当者を決め、担当者ごとに数回集まり、必要物品の確認や各活動の詳細を決めていった。これまででは、県の少年大会やジュニアリーダースクールの活動の一部やリーダー会の研修会や交流会の企画等は自らで行っていた。本大会に当たってはリーダーが、会場決め、プログラムの企画、必要物品等の準備をほとんど行った。

○事業内容

アイスブレイキング

1. 個人情報獲得ゲーム（魅惑の扉ゲーム）
2. 一家離散ゲーム
3. フライングディスク・さる

アイスブレイキングは、初めての参加や初めて会うリーダー達も多いことから、これから始まる研究大会の緊張感を和らげるため、またディスカッションが活発になるよう、そしてレクリエーションの紹介と企画・進行の研修として取り入れた。

今回行った個人情報獲得ゲームは同様なゲームもいくつかあるが、そこに魅惑の扉ゲームとして、人探しの要素を取り入れた。このゲームで出会いを演出し、次のグループ作りゲームへつなげ、そしてグループで協力してスポーツを行うようにアイスブレイキングを企画した。

ゲーム内容については、「魅惑の扉」は山形県リーダー会で考えたもので、一家離散ゲーム、フライングディスク・さるは既存のものをアレンジしたもの。

報告会

報告会では、始めに昨年の研究大会のディスカッションテーマ「広報（PR）ビデオ」「リーダーのネットワーク作り、県内・県外のリーダーとの連携」で決められたことについて説明を行った。その後、1年間の取組みを各道県の発表を行った。各道県の発表後、休憩を挟みディスカッションに移った。

ディスカッション

リーダー会員不足のため、会員を増やすにはどうしたらよいかということで、3年に渡り「リーダー活動のPR」とリーダー活動の更なる発展のために「ブロック及び各道県内リーダー連携」ということで活発な意見交換を行ってきた。今回の研究大会はその締めくくりとし、事前に各道県にアンケートを取り、ディスカッションのテーマと進め方を決めた。

リーダーディスカッションテーマ

「リーダー会のPR（ビデオ、ホームページ、その他）について」

ここ数年続いてきたテーマではあるが「活動することで精一杯な為、PR出来る状況じゃない」との声もあり、団員からリーダー会への勧誘も大事だが指導者や体協などに認めてもらうこともPRになるのではないか、という話になった。

今できることは、ということで「出来るだけ研修に参加する」「周りの人達と協力していく」、ひとりひとりが出来ることとして「指導者や体協に報告書を提出し理解を求める」というまとめになった。

「ブロック、リーダーネットワーク（連携）について」

携帯サイト活用による連携

北海道・東北ブロックのホームページ（携帯サイト）を立ち上げた意味は、連絡などといった伝達する場ではなく、各道県の活動情報を共有するためのものであったが、ホームページの趣旨を各道県で違う捕らえ方をしていることがわかった。そこで各道県でホームページのあり方をもう再度検討することとし、必要だが改善の余地がある、ということになりホームページの内容を改善することとなつた。

ホームページを活性化させるためには、研究大会の参加者が積極的に取組み、各県で報告・引継を必ず行い、途絶えないようにすることとし、各リーダー会活動を盛り上げていくこととした。

広報誌の活用

昨年の研究大会で各リーダー会で広報誌の発行と活用を目標としたが、発行できていない所や上手く活用できていないリーダー会があった。今後は県により今のリーダー会の状況が違うため、自県で出来ることを見つけ、現在よりも良い方向へ持って行けるようにすることとなつた。

また、広報誌をブロック連携のツールとして活用することとなり、ブロック広報誌、報告書をまとめるのこととした。

広報誌

- ・研究大会次回開催県は広報誌を2回発行し、各道県へ送付
- ・新役員、報告、アンケート等を春と研究大会開催前に発行
- ・研究大会開催県は報告書を各道県へ送付

報告書

- ・研究大会終了後、各道県で報告会を開催し、その報告書を各道県へ送付
- ・研究大会の反省、ディスカッションのまとめ、報告会内容、研究大会開催県は次回開催県に向けてのアドバイス、運営日程

報告書の送付、受け取り時にブロックのホームページに報告を書き込む。

指導者ディスカッションテーマ

「ブロック研究大会においてリーダーが連携を取るための指導者の役割」

リーダー達を正しい方向へと導くべき存在でなくてはならないが、まずリーダー達との距離間や指導方法について現状を分析し、自リーダー会に見合った指導をしていく必要がある。

ディスカッションはテーマ毎にリーダー、指導者が各道県の参加者が均等となるように分かれ、また、ディスカッションを円滑に進めるため、コーディネーターを設けることにし、山形県リーダーを付けることとした。

始めはコーディネーターを中心に進め、グループ毎に進行と書記、発表者を決め進めた。

交流会

そば打ち体験

開催県の特色を取り入れたプログラムであるそば打ち体験を行った。グループに分かれてそば粉をふるいにかけるところから、茹でるまで行った。そばの出来栄えは麺は太いものや細いもの、固いものや柔らかいものなど、いろいろであったが自分達で作ったそばは大変美味しかった。初めて経験する人が多く、とても楽しかったという声が多く聞かれた。

交換交流会

各道県より事前にレクリエーション、ダンス（創作等、各リーダー会で行っているもの）を準備してもらい、その発表と交流を行った。

交歓交流会レジュメ

1. 山形県ダンス：LOVE&JOY（創作ダンス：第44回全国スポーツ少年大会で披露）
2. 宮城県レクリエーション：新聞ゲーム
3. 秋田県レクリエーション：タコタイ
4. 福島県レクリエーション：マッショマン体操
5. 北海道ダンス：イカ踊り
6. 青森県レクリエーション：パイプライン
7. 岩手県レクリエーション：方向音痴
8. 北海道レクレーション：遊園地
9. 福島県ダンス：ジンギスカン（福島県バージョン）
10. 山形県レクリエーション：友情の和

各道県いくつかレクリエーションを準備してもらい、発表も決めていたところもあったようだが、「静」のレクリエーションと「動」のレクリエーションを適当に組み、全体の流れを考えた。進行においても、次に繋げ易くするために、始まりと終わりの全体の隊形も考慮した。

関東ブロック（千葉県）

開会式直後に参加者同士のコミュニケーションおよび研修を目的に講師によるレクリエーションを行った。

前回大会後と今回の事前アンケートの中で、子どもたちをやる気にさせる方法を学びたいという意見があったことから、レクリエーションの方法と意義を学び、リーダー会活動に取り入れていくことで、リーダー会活動の魅力をよりPRすることができると考え、研究大会では初めてのことであるが、レクリエーションの専門家を依頼した。

講師からはレクリエーションだけではなく、リーダーに必要なことについての話もいただいた。「自覚」「愛情」「周囲への配慮」「子どもとの接し方・話し方」などだった。

ディスカッションでは第一分科会において、「都県リーダーの活動の現状と問題点」について話し合った。共通した問題として、リーダーとしての意識の低さやリーダーの質について挙げられた。対策として、責任感を持たせる、リーダーとしての上の立場である自分たちが一生懸命リーダー活動を行うなどが挙げられた。リーダーのOB、OGとの連携を取っている県は上手くいっているようであった。具体的には検討委員会や顧問会などの組織を作つて活動している。

意識の向上の対策については委員会制度について話し合われた。委員会を作ることで、少人数で話し合うことができ、個人の意見が反映されやすい環境が作れるというメリットがあり、結果として責任感が増し、意識が向上するのではないかといった意見があった。

また、1年トライアルの必要性についても話し合われた。1年トライアルとは各都県が課題や問題点を見つけ、一年間解決に向けて取り組むというものである。この取り組みに対しては各都県の組織がしっかりとしているかどうかで温度差を感じた。また、各都県の問題は県内で話し合うべきことであり、関東ブロックで話し合うできことではないという意見もあった。しかし、1年トライアルは取り組みはじめて間もなく、成果が出るまで継続していく必要があり、問題について話し合うことで問題が明確になり解決策も出てくる、また関東ブロックが取り組んでいることを発表することは良い結果につながるという意見でまとまった。

第二分科会では、「関東ブロック交流大会の企画運営」について話し合った。各都県の日程調整や、内容についての意見など実現に向けた話し合いを行つた。まずは千葉県が主催し、交流大会の企画を立案する。各都県に案内を出し、欠席県については報告書を送付し参加しやすい環境を作つていくこととした。

第三分科会では「リーダーの増員とPR方法」について話し合つた。問題としては、時間が合わず集まれない、休会制度を作つたことによって人数が激減した、リーダーの意識が低いなどが挙げられた。解決策としては、交流会で参加者にPRしていく、出張レクを単位団向けに行つ、会議でリーダー会のOB・OGを呼び意見を求める、リーダー用の新聞をつくるなどが挙げられた。まとめとしては、保護者・指導者の理解を得たいが、まずはリーダー会の根本的な土台をつくり、体制を固め、県ではなく市町村にリーダー会を設けていくことを目標とした。

全体の反省としては、報告書の作成が遅れ、他県に迷惑をかけたこと、会議をまとまに行えず、OB・OGの力に頼ってしまったところで、課題としては早く人数を集めて一人前のリーダーを育てることである。

北信越ブロック（新潟県）

北信越ブロックは1泊2日の日程で行った。リーダーは高校生12名、中学生9名の合計21名が参加し、指導者は9名の参加であった。

1日目の活動内容としては、開会式を行い、各県から20分ずつレクリエーションの発表を行った。その後各県から各県における活動報告を行った。

その後行われたディスカッションの内容において、中学生リーダーは「リーダーとしてやりたいこと」、高校生以上のリーダーは「次世代リーダーの発掘育成」、指導者は「リーダー会の知名度をアップする方法」について話し合われた。1日目のうちにディスカッションのまとめを行い、2日目は各県ごとに集まり今後の活動方針について話し合いを行った。

最後にアンケート記入、寄せ書き、記念撮影を行い解散となった。

運営に関しては、会場確保について指導者や県事務局任せになってしまい、リーダー会が関われなかつたことは残念だった。

内容に関しては、ディスカッションを中心とした研修事業とした。

引きつぎに関して、今年度より引きつぎファイルを作成し、中にディスカッションの内容やテーマを記録し、引きつぎをスムーズに行うことができた。

課題や問題としては、各県からの参加リーダーが少なく、もっと開催県による呼びかけが必要ではないかということが考えられた。また、富山県にはリーダー会がなく、福井県は会長が不在だったこともあり、リーダー会の人材育成も必要だが、まずは足場を固める必要性を感じた。さらに中学生参加リーダーの意識が低く、リーダーとしての自覚の向上が必要である。ディスカッションにおいては高校生リーダーを中心になってしまい、中学生リーダーは経験不足から雑談になっていることが多い、今後は高校生リーダーがサポートに入ったり、ディスカッションを止めて講義にしたりと対応する必要がある。

1泊2日の日程で研修をメインにしたことから、交流が少ないという意見もあり、次年度からは2泊3日の日程で研修と交流をバランスよく配置することとした。

指導者からは、全体的には各県リーダー会の連携が上手くいっていたのではないか、引きつぎファイルの作成によりスムーズな運営ができるることは成果といえる、リーダーに自覚・目標意識が見受けられた等の意見があった。

課題としては、リーダー会の位置づけや役割を認知する中で、リーダー会が組織として活動を行っていくため、リーダーの育成ができるかどうかが挙げられた。

毎年同じ内容の話し合いを行っているが変化が見られないで、宿題として話し合った内容を各自が実践し、それが実践できたかどうかを次年度の研究大会で発表することとした。具体的な宿題として「行事終了後に各単位団やリーダー会で報告会を行い、参加することのできなかったリーダーたちに内容や成果を伝えてリーダーとしての意識の向上、リーダー活動とのつながりを維持する。」「指導者とリーダーの話し合いの場を設ける。」「ジュニア・リーダースクールに参加するよう友達に声をかけ、自分がジュニア・リーダースクールでどのようなことを行ったかを話し、理解の輪、友情の輪を広める。」以上3点について実行に移し、今年度の研究大会で発表する予定である。

これまで北信越ブロックではこれからやりたいことを中心に話し合ってきたが、今後は自分たちでやれること、実行できることを話し合い、話すだけで終わらない次につながる研究大会を行いたい。

平成19年度全国スポーツ少年団 リーダー連絡会

東海ブロック 全体発表

静岡県スポーツ少年団リーダー部会

会長 松本真祐
副会長 大場美沙

第11回東海ブロックスポーツ少年団 リーダー研究大会

- ・期間 平成19年3月17日(土)～
3月18日(日)
- ・会場 静岡県立三ヶ日青年の家
- ・参加者 リーダー各県15名 指導者各県2名



過去に行った内容

- ・機関紙の作成
- ・障害者スポーツ
- ・発育発達に関するトレーニング

etc. . .

第11回目の研修会目的

原点……

「日本スポーツ少年団団員綱領」

スポーツ活動を通して、「協力する」「ルールを守る」「我慢する」など、様々な教育的価値を見つけ学ぶこと。

研修会内容

- スポーツ活動

野外編……海洋活動、サイクリング

体育館編……ラジオ体操

- ディスカッション

テーマ：

「どおするよ リーダー！？～統率・役割・理想～」

☆サイクリング☆

浜名湖沿いを、景色を見ながらサイクリング

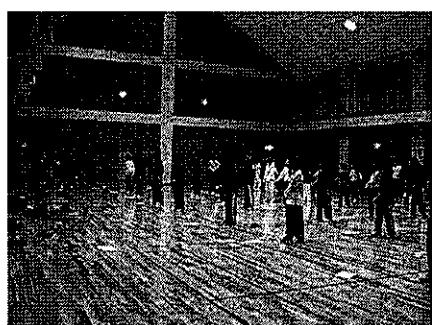


☆カッター訓練☆



☆ラジオ体操 基本編☆

BeFor



Akay

☆ラジオ体操 応用編☆



ペアラジオ体操

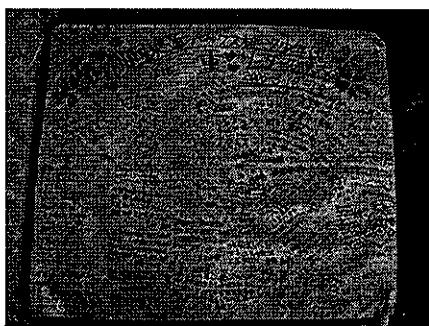
ペアラジオ体操



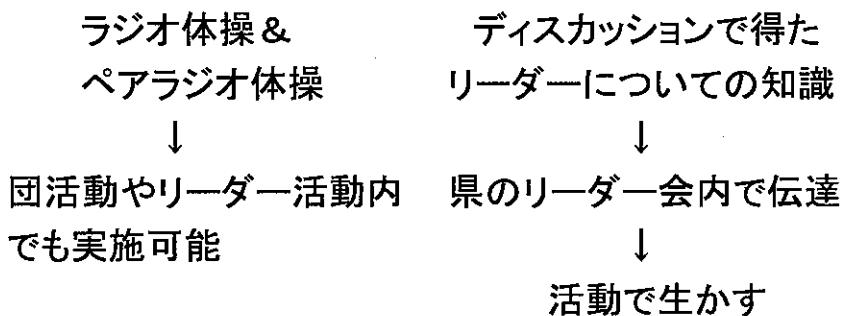
☆ディスカッション☆



受け継いで行こう！



内容をフィードバック



ご清聴ありがとうございました！



他府県のリーダー研究大会も実りあるもので
ありますように☆

第6回 近畿ブロックスポーツ少年団 リーダー研究大会

平成19年6月16～17日
奈良県青少年野外活動センター

全大会 (13:30～) 各府県の現状

大阪—登録人数が60人と多いが、活動に参加しているのは20人前後

活動にある全体会は県大会その他の打ち合わせ

奈良一県として登録指導者はないが、各市町としての登録で参加している

県民体育大会の受付を行ったり、開会式を行ったりしている

滋賀一近畿間のリーダー交流のため、他府県交流を行っている

現在は近畿だけの参加者ではなく愛媛・石川県からの参加もあり、参加者も50人程度

和歌山一さわやかマラソンは町運営の活動で、みんなで汗をながそうをコンセプト

そこで沿道に立ったり、補助として活動している

県単位のリーダー会の広報の発行を行っているか？

兵庫一予算がないのでない

滋賀一会議の後にリーダーの中の事務局長が発行する議事録を送っている

京都一議事録は欠席者に出している。新聞は出していたが、あまり続いていない

大阪一今年から新聞を作ろうと思っている

問題点

・リーダー会員の地域に偏りがあるため、活動が単一内のみになっている

・ジュニアリーダーの活動場所が少ない

資格を取っても活動する場所がない。単位段にリーダーを育成する指導者がいない。リーダーになりたいが指導者に受け入れてもらえない現状がある。

・後継者作りに限界がある

中学生・高校生の登録団員はある程度いるが、リーダー活動を行っていない・リーダー活動が行われていることさえ知られていない。この状況で5年後10年後に現状のように楽しく活動が行われるのか？後継者はいますか？（京都は府リーダー会・単位団の区別がしっかりとあるので、単位団に浸透しなければ、府の活動が成り立たなくなる）

・レクリエーションのマンネリ化

取組方法

・ジュニアリーダースクール時にPR（結果、リーダーが帰ってきてているか？また、単位団も含めて、帰ってこれる環境が整っているのか？）

和歌山・奈良一リーダー会のアピールは行っているが、そこ止まり

京都一各市町村からの推薦（2名まで）で活動している。

大阪一全体の2%にはPR

滋賀一jr.リーダースクール(全員参加)でリーダー会のPR活動。中学生研修でもPRしているが、実際は理解のある指導者がいらっしゃる単位団からしか参加者は出てこない。

兵庫一姫路・川西・尼崎では参加者は募るが、例年同じ顔ぶれがでてくる。

県のリーダー会は各市町からの推薦（5名まで）で活動しており、今年度はjr.リーダースクール参加者より新規1名が登録している。

大阪一府理事会からの推薦で指導者が2名登録。育ったリーダーが単位団に戻り、その後リーダーを育てるまでにはいたっていない。2名の指導者では手が足りないので、青年指導者として23歳以上の登録も認められ、リーダーの育成できる指導者を増やしていっている。

和歌山一単位団同士が交流できる場を作っている。

分散会1 (14:40～) テーマ別に分かれてディスカッション

・リーダーについて

・近畿のリーダー会でできること

・大会プログラム・レクリエーションの内容

進行ー田頭 発表ー中村 書記ー石井

レクリエーションの偏り

和ー近畿レクリエーション大会を催すが、レクの時間配分ができるメンバーがいないので参考にしたい

近畿発のダンス（サタデーナイト）を作ったので、それを広げていきたい

滋ー全国大会等のプログラムを参考にして大会プログラムを組んでいったが、なかなか時間通りに動けなくて困った

大ープログラムの流れを考えて内容を考える。導入・盛り上げ・ダウンの流れを作っている

年に1回宿泊で研修を行い、レクリエーションの講師をよんで、それを参考にしたり、アレンジしたりして活動に活かしている

奈ーテレビでしているゲームの内容を県大会等に活用

ジンギスカンをファイナーで行わない

ファイナーは太郎君次郎君・ブンチャッチャ等、レクとは別物として扱っている

兵ー尼崎では年に9回リーダースクールを開催。そのうちの1回は講師を呼んでいる

名前はわかるが、自分ではできないレクも多くある

大会の内容（各プログラム内容考えていこう）

1日目は肝試し、2日目はキャンプファイナー、3日目はウォークラリーのように毎年同じような内容になっている。

ある程度時間の枠組みは毎年固定化されている。

jr.リーダースクール

和ー1泊2日。リーダー会がすべて運営している

滋ー2泊3日。ひたすら講義が続き、リーダーと団員が交流する時間がほとんどない

体協がプログラムを組んで、あいている時間をリーダー会が担当している

去年から班付きリーダーがすべての団員と過ごし、全体を通して参加するようになった

講義とレクリエーションの比率が悪く、講義が長い

体力・筆記テストは実施していない

奈ー講義は指導者。空いている時間をリーダーが担当

最終日にリーダーが作ったテストを行う（テキストに沿った内容）

テレビ内容参考にしたレクリエーションを使って盛り上げた

兵ー1泊2日。体力測定も行う。指導者が講義するが、リーダー会が講義を担当する場もある。最終日にテスト。

大ー昨年のプログラムと昨年の反省を活かし、リーダーや団員からやりたいことを募集してプログラムを作成する。リーダー会としては朝の集いの1時間や、講義の最後にリーダーとしての視線を団員に報告。他は体協が決めた毎年同じ講義を行い、リーダーとしてはマンネリを感じる。レクの時間に講師がするだけでなく、リーダー会が進めてくところが欲しい。最後に団員同士でディスカッションする時間を設けている

まとめ

各府県が県スポ・jr.リーダースクールのおおまかなプログラムの特徴・問題点を発表

問題点を議論した後、レクリエーションの内容も発表・意見交換

各府県のプログラムに対する問題点

明日はjr.リーダースクールのプログラムを考えていく

（対象：小5～中3 1泊2日 団員50～60人）

jr.リーダースクールでできるレクの交換をしていく

jr.リーダースクールのプログラム

1日目

10:00 集合・開会式・オリエンテーション

20:30 風呂・自由

22:00 就寝

11:00 講義1

2日目

12:00 昼食

06:30 起床

13:00 講義2

07:00 朝の集い

14:00 野外炊事

08:00 朝ごはん・掃除

17:00 ご飯

09:00 ウォークラリー

18:00 交流

10:45 テスト

11:50 星ごはん
13:00 ディスカッション・発表

14:30 閉会式
15:00 解散

交流活動 ☆キャンプファイヤー☆ (19:00~) すべてゲストエールとして

遠き山に日は落ちて (2番はハミング)

ロケット点火

もえろよもえろ (3番まで)

大きな歌

ポテトチップス

ありとぞう (ライオンとカバ)

輪に集まれ

八百屋 (罰ゲームはゴキブリ)

はなやか (花野果)

みんなでわっはっは

☆ポテトチップス一畳のジャガイモがハッ！、ジャガイモが、ニヨシキニヨシキ伸びてきてハッ！、伸びてきて、ごしごし顔洗いハッ！、顔洗い、パジャマを脱いだら太りすぎハッ！、太りすぎ、トントントントントン、油のお風呂に浸かったらハッ！、
浸かつたら、ポテートチップス出来上がり

分散会 2 (8:30~)

ゲームをリストアップ

名前覚えゲーム

死刑、爆弾ゲーム、

班対抗ゲーム

君パニ (君はこのパニックに耐えられるか)、特価品 (繋げよう)、キンボール、お好み焼き、人間知恵の輪、フラフープ、板のり、ガードゲーム、目隠し、キャベツむき (ひっぺがし)、関所やぶり、阪神巨人、猫とねずみ、ロープ超え、目隠し正方形、シッポ取り、自分当てゲーム、

その他

猛獣狩り・魚狩り・祭り・アイドル狩り、進化じゃんけん、太郎君次郎君、ジンギスカン、すきやきじゃんけん、池と鯉、牛タンゲーム、誕生日、木とリス、もしかめ、ブンブンブン、輪に集まれ、お出かけアンパンマン、ブタ (ブンチャッチャ)、ヤーやーやー (椅子取りゲームバージョンアップ)、会長ゲーム、メンソレータム、震源地、円しりとり、お土産どうぞ、サラスバ、TOTO 便器、キャンプだホイ、ゴキブリだホイ、色当てゲーム、テクノダック、セブンジャンプ、手つなぎ鬼ごっこ、じゃんけん列車、近所迷惑、発電所変電所

お好み焼きシートの上に班のメンバー全員がのる。誰もシートの外にいかないように、シートを裏返していく

近所迷惑 (引っ付き鬼) - 2人ペアを作って座る。鬼はペアの横に座ると3人になり、鬼と反対の人が鬼となり、新しいペアを作りにいく

会長ゲーム-右手を上げたら拍手、左手を上げたら「よっ！会長！」、両手を挙げたら拍手しながら「よっ！会長！」

自分当てゲーム-背中に貼ってあるものを当てる。他の人にヒントをもらいにいく。「私は〇〇に似てますか？等」と聞くと、「はい・いいえ・わかりません」を答えてもらう。同じ人に2回聞いてはいけない。最後に「私は〇〇です」という人を作り〇か×か

目隠し正方形-目隠しして、みんなでロープを持つ。目隠ししたままで正方形を作っていく

死刑-名前を呼びながら壁にボールを当て、呼ばれた人は取りにいく

キャベツむき-一班員全員で抱きつきあって、それを他班が一人一人をはがしていく

魚狩り (集合ゲーム) - 魚狩りにいこうよ、魚狩りにいこうよ、今日は大漁ねらおうぜ！、釣り竿だって持ってるし、網だっ持つてるし、魚狩りにいこうよ、魚狩りにいこうよ

猫とねずみ-2列に並んでお互いむきあう。猫列・ねずみ列を作る。「ねねね・ねこ」猫列は反対向いて壁まで走っていく。その間にネズミにつかまつたら負け (他にタコとタイとかウシとウマなどがある)

ヤーやーやー-椅子に座って内を向いて輪になる。鬼は「ヤーやーやー」と言いながら椅子に座っている人を円の中に連れ込む。連れ込まれた人も、他の人を円の中に連れんでいく。鬼は気づかれないように椅子に座ると、他の人も一斉に椅子に座りに行く。残った1人が新しい鬼となる

色当てゲーム-色着きのスーパーボールを手に持ち、これは何色？「青青青」「赤赤赤」「黄黄黄」と各班言い合い、最終的に「赤色でした」

ガードゲーム－体育馆で班の何人が反対側の壁までたどり着けるか。途中で、他の班の人が何列かに分かれてガードに入り、タッチされたらはじめからやり直し

君ペニー新聞紙の上に全員がのる。代表者が前のリーダーとじゃんけんして、負けたら新聞紙を切られていく。その新聞紙の上にいつまで全員がのっていられるか？

すき焼きじゃんけん一袋にすき焼きの具材を書いた紙を入れ、前のリーダーとじゃんけんして勝ったら袋から具材を1つゲット。

早くすべての具材をゲットしたチームが勝ち

誕生日－〇月生まれのあの人一人に一♪贈ってあげたいものがある一♪素敵な夢、素敵な歌、素敵な恋と青春を一♪らーらららーららーらーららららー♪

木とリス－3人1組になる。3人のうち1人がリス残りの2人は木になる。司会者は「リス」「木」「火事」の3種類の号令を使う。「リス」の号令では中のリスだけが動き「木」という号令では2人組で手をつないでいる木が動く。「火事」の号令ではリスも木も動く。

ジャンケン列車－2人組でジャンケンをして負けた人は勝った人の後ろから肩に手をのせて並ぶ。別の組みと先頭の人同士でジャンケンをし負けた組みの後ろに並ぶ。これを繰り返していき1つの輪になる。

震源地－震源地役の人は動作を変えていきメンバーはそれをまねする。鬼になった人は震源地の人を当てる。

jr.リーダースクール 18:30～の交流会のプログラムを作ろう！(in 体育馆)

猛獣狩り
キャンプだホイ
輪に集まれ
手繋ぎ鬼ごっこ
発電所変電所
TOTO便器
ジンギスカン

全大会2 (11:00～)

・リーダーについて(発表－和歌山 猪西)

リーダーになった理由

リーダーの印象

リーダーになってのイメージ を話し合い、問題点を提起

・リーダーが辞めてしまう

その問題点を解決するために、リーダーとして積極的に参加するだけではなく、悪いことは悪いと言えるリーダーになることが必要。ルールを教えるお兄さん、お姉さんの存在が必要。近づきやすい指導者となるのではなく、指導者と団員とをつなぐーションであり橋のような存在になることが必要。声をかけてあげれる人になる。

・理想となるリーダーになるために必要なこと

団員・リーダー・指導者が互いに交流しあえる。リーダーが楽しめることで、団員も楽しめる。欠点や良点を見つけ言い合い改善していく。

・後継リーダーを作るには

jr.リーダースクールで学んだことを単位団で実行して、楽しみ方を教えてあげることが必要。単位団などでもレクリエーションをする。jr.をすごく良いのをしてそれを持ち帰ってもらう。

・大会プログラム・レクリエーションの内容(発表－大阪 中村)

・各府県の県大会等のプログラムの組み方の交換を行う

大阪－全体的に流れが決まっている。講師の先生を呼んだりしている

奈良－リーダーが全体的に運営し、テレビで流れているゲームをアレンジして行っている

滋賀－県大会の内容が全体的に決っている

和歌山－大まかなプログラムがあり、その他をみんなで考えていく

京都－去年のプログラムを参考に、団員からもプログラム内容を募集して、新しく組みなおしている

兵庫－県大会はテーマを決めてプログラムを決めていく

・jr.リーダースクール

大阪－毎年決まっているプログラムを行っているので、違ったプログラムを行っていきたい。最後のディスカッションで団員と交流

奈良－最後にテストを実施

滋賀ー講義が多いので、団員との交流時間が少ない。2泊3日で行われているが、体力測定は行っていない
和歌山ー2つの市にリーダー会が存在するが、そのうちの1つの市からしか参加していない
兵庫ー基本的には先生が講義を行うが、1箇所だけリーダーが講義を行うところがある

- jr.リーダースクールで行えそうなゲームを発表

死刑、爆弾ゲーム、君パニ（君はこのパニックに耐えられるか）、特価品（繋げよう）、キンボール、お好み焼き、人間知恵の輪、フラフープ、板のり、ガードゲーム、目隠し、キャベツむき（ひっぺがし）、関所やぶり、阪神巨人、猫とねずみ、ロープ超え、目隠し正方形、シッポ取り、自分当てゲーム、猛獣狩り・魚狩り・祭り、進化じゃんけん、太郎君次郎君、ジンギスカン、すきやきじゃんけん、池と鯉、牛タンゲーム、誕生日、木とリス、もしかめ、ブンブンブン、輪に集まれ、お出かけアンパンマン、ブタ（ブンチャッチャ）、ヤーヤーヤー（椅子取りゲームバージョンアップ）、会長ゲーム、メンソレータム、震源地、円しりとり、お土産どうぞ、サラスバ、TOTO便器、キャンプだホイ、ゴキブリだホイ、色当てゲーム、テクノダック、セブンジャンプ、手つなぎ鬼ごっこ、じゃんけん列車、近所迷惑、発電所変電所

- これらをもとに、理想のjr.リーダースクールのプログラムの作成

対象：小5～中3 1泊2日 団員50～60人

1日目	12:00 昼食
10:00 集合・開会式・オリエンテーション	13:00 講義2
11:00 講義1	14:00 野外炊事
17:00 ご飯	20:30 風呂・自由
18:00 交流	22:00 就寝

2日目	10:45 テスト
06:30 起床	11:50 昼ごはん
07:00 朝の集い	13:00 ディスカッション・発表
08:00 朝ごはん・掃除	14:30 閉会式
09:00 ウォークラリー	15:00 解散

18:00～の交流会のプログラム (in 体育館)

猛獣狩り
キャンプだホイ
輪に集まれ
手繋ぎ鬼ごっこ
発電所変電所
TOTO便器
ジンギスカン

プログラムを作るにあたり、ゲームとゲームのつなぎ方を中心に考えていたが、そうではなく団員中心に行わなければいけないと再認識できた。

・近畿のリーダー会でできること (発表一京都 鮫島)

年間を通して近畿間の交流を増やしていきたい

6月ー近畿ブロック研究大会

7月ー近畿スポーツ少年大会

9月ー全国リーダー連絡会

(3月ー滋賀県開催の他府県交流会)

この他に新しい行事を増やしていく・既存の活動の中にもっと交流活動を増やしていく の2通りを検討

予算や場所・その他のことから新しく行事を増やしていくのは難しそうである

近畿スポーツ少年大会では団員が中心となるため、ここにリーダーの交流会をもつくるのはおかしい。そこで、近畿ブロックでの交流をメインとした活動にしていくことが理想だが、分科会も必要。メリハリのあるプログラム作り。

来年度から2順目するわけだが、今回のように交流をしていく時間を設けたい。時間が足りないようであれば、起床時間を少し早くするなどする。各府県からレクを1つ持ち寄る。

注) 実施要綱に基づいたプログラムにしなければいけない。参加するリーダーの意識付け。

平成19年度 中国ブロックリーダー研究大会 及び 平成19年度 中国ブロックスポーツ少年大会

大会概要

	スポーツ少年大会	リーダー研究大会	
趣旨 目的	中国5県のスポーツ少年団員が集い、スポーツ活動や交流・交歓活動、スポーツ少年団活動に関する相互研修を通して、お互いの友情を深めるとともに、リーダーとしての資質の向上を図り、ひいては、中国5県スポーツ少年団の充実、発展に資することを目的とする。	中国5県のスポーツ少年団のリーダーが集い、スポーツ少年団活動に関する相互研修を通して、お互いの連携を深めるとともに、各県及び各市町村のリーダー会の充実・強化を行い、将来の指導者としての資質向上を目指す。	
課題 方向性	各県リーダー相互の交流も重要な要素と考えられるが、レクリエーション活動を中心とした内容だけでは、今後のスポーツ少年団活動の充実・発展には繋がらない。 <u>スポーツ少年団の在り方や、平素の団活動におけるリーダーとしての資質の向上に繋がる研修活動を積極的に取り入れる必要がある。</u>	各県、各市町村のリーダー会の代表が集う研究大会ということで、リーダー会の在り方、方向性、充実・拡充が中心のテーマとなる。 交流活動も必要と思われるが、 <u>スポーツ少年団活動の意義や、その中のリーダー会の役割についての研修を積極的に取り入れる必要がある。</u> <u>9月に開催される「平成19年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会」への対応準備。</u>	
主催	財団法人 日本体育協会 日本スポーツ少年団 財団法人 鳥取県体育協会 鳥取県スポーツ少年団 財団法人 島根県体育協会 島根県スポーツ少年団 財団法人 岡山県体育協会 岡山県スポーツ少年団 財団法人 広島県体育協会 広島県スポーツ少年団 財団法人 山口県体育協会 山口県スポーツ少年団		
後援	鳥取県教育委員会 広島県教育委員会	島根県教育委員会 山口県教育委員会	岡山県教育委員会
主管	財団法人 山口県体育協会 山口県スポーツ少年団	財団法人 山口県体育協会 山口県スポーツ少年団 山口県スポーツ少年団リーダー会	
期日	平成19年8月24日(金)～26日(日) 2泊3日		
会場	山口県スポーツ交流村 (山口県光市)		
参加資格 及び 参加人数	・リーダーとしてふさわしい中学生以上の団員 各県8～9名 ・スポーツ少年団指導者 各県1～2名	・リーダー会代表者 各県2名 ・リーダー育成担当者 各県1名	

参加人数総括表

	スポーツ少年大会					リーダー研究大会					合計			
	指導者		参加者		小計	指導者		参加者		小計	男	女	総計	
	男	女	男	女		男	女	男	女					
鳥取県					0					1	1	0	1	1
島根県	1	1		2	4	1				2	3	2	5	7
岡山県	1	1	1	4	7	1		1		2	4	5	9	
広島県			4		4	1				1	2	5	1	6
山口県					0	1		2	2	5	3	2	5	
計	2	2	5	6	15	4	0	3	6	13	14	14	28	
運営本部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	2	6	
合計	2	2	5	6	15	4	0	3	6	13	18	16	34	

※中国ブロックリーダー研究大会の特徴

「リーダー研究大会」と「スポーツ少年大会」の同時開催

※本大会の運営体制

山口県スポーツ少年団本部が中心となり企画立案を行い、そこにリーダー研究大会におけるリーダーの意見を組み入れたプログラムとした。→しかし、具体的なリーダーの意見は出てこなかった。

運営体制としては、山口県本部を中心としながら、各県のリーダー育成担当指導者にも担当のコマを受け持ってもらい、オブザーバーもしくは座長として運営に協力していただいた。

リーダー研究大会参加者には適宜、「交流交歓活動」等の時間において、ファシリテーターとしての役割を担当した。

メモ

平成19年度 平成19年度 中国プロックスポーツ少年大会 及び 中国プロッククリーダー研究大会

大会日程			
8月24日(金)	8月25日(土)	8月26日(日)	
スポーツ少年大会 リーダー研究大会	スポーツ少年大会 リーダー研究大会	スポーツ少年大会 リーダー研究大会	リーダー研究大会
6:30 起床・洗面 7:00 早朝散歩	6:30 起床・洗面 7:00 清掃	6:30 起床・洗面 7:00 清掃・退村準備	
7:30 朝食 8:00 清掃		7:30 朝食	朝食
9:00 学習活動 講演 「スポーツ少年団活動の課題と方向」	9:00 学習活動 「リーダーの役割」	8:30 部屋点検後移動 9:00 学習活動 「リーダーの役割」	学習活動 「全国連絡会への発表」「来年の方向性」
10:45 自由討論	10:30 自由討論	10:15 自由討論	学習活動 10:00 「まとめ・全体報告発表会」
11:00 学習活動 「スポーツ少年団とは」 12:00 自由討論	11:00 学習活動 (参加者がテーマ既定) 12:00 「各県のリーダー会活動における課題」	11:15 ～昼食 11:30 ～昼食	閉会式 12:00 解散
12:15 昼食			
13:00 受付			
13:30 開会式 オリエンテーション	13:30 交流交歓活動 「海水浴」「砂のモニュメント」 創作活動 発表会・後始末	13:30 交流交歓活動 「海水浴」	
14:00 指導者打合せ(大会趣旨・経緯等)ノ研別活動			
15:30 交流活動 交流ゲーム(研究大会参加者が) カローリング	15:30 学習活動 「各県情報交換」 16:00 自由時間	16:00 学習活動 「各県情報交換」 17:00 自由時間	
17:45 夕食		18:00 夕食	
18:00		18:30	
18:30			
18:00 学習活動 「私とスポーツ少年団活動」 1分間スピーチ 自由討論	19:00 学習活動 「リーダーに求められるもの」 3分間スピーチ 自由討論	19:00 学習活動 「学校生活とスポーツ少年団活動」 自由討論 20:30 自由討論	学習活動 「21世紀に私たちに向かができるか」 自由討論 20:30
20:30 入浴・自由交歓		21:00 入浴・自由交歓	
22:30 就寝		22:30 就寝	

四国ブロックリーダー研究大会 開催県(愛媛県)

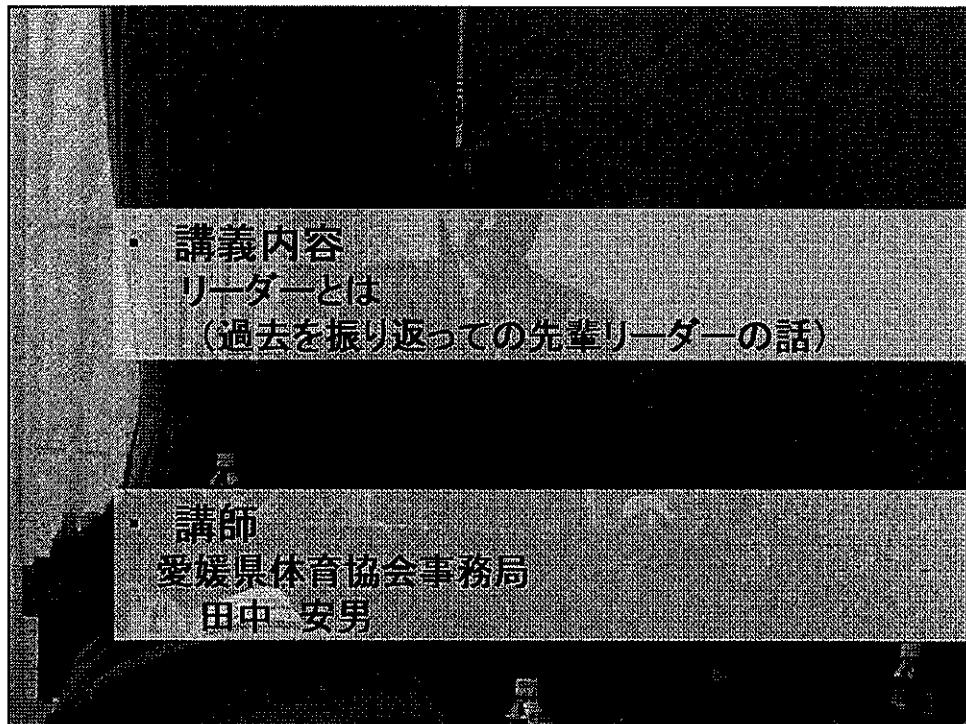
※ 指導者研究協議会との同時開催 ※

発表者 松田・牧



平成18年度四国ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会日程表			
	1月20日（土）	場所（会場）	1月21日（日）
7:00			道後旅館
8:00			7:00
9:00			8:00
10:00			9:00
11:00			10:00
12:00	受付	徳島県県民文化会館 (089-923-5111)	徳島県 身体障害者福祉センター 体育馆
13:00	開会式 移動	道後温泉	会場会 開会式 パンケット記入 昼食
14:00	足湯 移動		14:00
15:00	講義 【リーダーのあるべき姿】 講師：田中安男	第5・7会議室	15:00
16:00	移動		16:00
17:00	ディスカッションI 【リーダーとは】 助言者：田中安男	第3会議室	17:00
18:00	夕食	徳島県県民文化会館 1階 レストラン	18:00
19:00	ディスカッションII 【リーダー会の現状】 【リーダー会の活性化】 助言者：辻 敏三	身体障害者更生センター 道後旅館 (089-925-2019)	19:00
20:00			20:00
21:00	フリー		21:00
22:00	就寝		22:00





ディスカッション

- ① リーダーとは…
- ② リーダー会の現状
- ③ リーダー会の活性化

参加者を年齢別のグループに分け、それぞれの年齢に合わせた①～③のテーマについてディスカッションを行った。



全 体 会

- ・ リーダー研究大会の報告・発表
- ・ 指導者研究協議会の報告・発表
- ・ 質疑応答
- ・ 引継ぎ式

長崎県リーダー会
会長 岡 信仁

平成18年度日本スポーツ少年団
九州ブロックリーダー研究大会を振り返って

【大会概要】

平成18年度日本スポーツ少年団九州ブロックリーダー研究大会は、9月16日（土）・17日（日）の両日諫早市の国立諫早青少年自然の家で九州各県のリーダー50余名が参加して開催された。

しかし、台風襲来というアクシデントに見舞われたため大会日程の変更を余儀なくされ、十分な研究討議ができないまま解散してしまい非常に残念だった。参加したリーダー達にとっては物足りなさが残った研究大会であったと思う。突然の気象変化により、交通機関も寸断され帰路の便には、各県とも四苦八苦されたようであるが事故なく終了し、また、無事に帰ったということであり何よりであった。

担当県の長崎県リーダー会は設立後間もなく、他県に較べると組織的な活動もなく弱い体质のまま今回の研究大会を迎えることとなった。特に、高校生が不在で素人の中学生が主体となっている本県のリーダー達にとっては、見ること聞くこと全てが初めての体験であり、色々と勉強させてもらい心から感謝している。高いレベルの大会を期待された他県のリーダーの皆さんには申し訳なく思っています。

しかし、参加された皆さんたちの暖かい思いやりと御指導により、色々と勉強し体験できることは今後のリーダー会活動のステップとなる絶好の機会になりました。

本県リーダー会も、この大会を契機に更なる飛躍を期して頑張りたいと決意を新たにした大会でもありました。

【運営スタッフの体制・運営の方法】

① 体制

本部役員	7名	各県の育成担当	8名
参加者	各県リーダー会会長他3～5名	計	50名

② 運営方法

講 義	スタッフ（予定通り）
ス ポ ー ツ 活 動	スタッフ（講師を変更）・・・雨天のため、室内活動に変更しコーディネーショントレーニングを実施。
	最後に各県対抗長縄大会を実施・・・鹿児島チーム優勝
班 別 活 動 ・ キ ャ ン ド ル サ ー ビ ス	リーダーを中心に内容を検討し、企画・実践する。（今まででは、事務局で企画したものをお消化するといった方式であったが、自分たちでつくりあげる企画を入れたこともありすごく新鮮で楽しく感じた。）

【全体会】

① 研究大会全般・・・参加者の反省から抜粋

- ・自分たちでオリジナルのルールを取り入れたことによって新鮮さがでてよかったです。
- ・一から自分たちで作り上げるという新しい企画は大変よかったです。
- ・自主運営・自主活動はよかったですが活動に対しての総合評価をする場が欲しかった。
- ・体協の指示とおりに動くのではなく、リーダー自身で行動できるようにすることが必要である。
- ・台風の接近にもよるが、全体での意見交換ができる時間が欲しかった。

- ・事前の準備不足、もっと具体的なタイムテーブルが立案されていればよかったです。

② スポーツ活動

- ・ペタンクを実施する予定であったが台風の影響で屋外での活動が不能になり、屋内で「コーディネーショントレーニング」を紹介したが初めての体験ということで全員に好評であった。

③ 分科会

- ・コミュニケーションが多くとれてよかったです。
- ・各県のレクリエーションの状況を知ることができた。
- ・初めてにしては内容が充実していた。うまくまとまり雰囲気がよかったです。
- ・起承転結、全体の流れはよかったです。
- ・楽しくできた、「九州は一つ」みんな一緒に頑張ろう。
- ・短時間のうちにみんな一緒になれたのはすごい。みんなで手を繋げようとしていたのはよかったです。
- ・もっと詳細な計画立案が欲しかった。
- ・時間厳守の徹底。意識が問われる。（中学生）
- ・連携不足のため全体のつながりに欠けた。
- ・ただ参加するのではなく、事前研修をした後参加する体制になれば良い。
- ・テーマに対しての共通理解に欠けたため行動がばらばらに感じられた。役割分担も不明確だった。
- ・班別の話し合いにこだわることなく全体で意思統一を図ったうえで取り組めば無駄が省けた。
 - ・リーダー間の意思疎通も不十分だった。会の進行についても配慮不足であった。
 - ・いわれたことをするだけでなく自分で考えて活動することが大切である。
 - ・事前準備の場は設営できないというのではなくしようとする努力が不足したのではないか。
 - ・誰にでもできることはきちんと注意し指導することが大切である。
 - ・恥ずかしさがありすぎて声が小さい。これでは活動ができない。
 - ・各自が意見を出せるように考えをまとめておくことが必要である。
 - ・もっと高いレベルの話し合いがもてればと思う。
 - ・本会の目的・主旨を明確に伝えるため全体会・班別話し合いを適宜組み入れていけば、意図することが徹底し円滑な進行ができた。
 - ・リーダーの経験者を動かすことは簡単であるが、初心者の場合は難しい。失敗を恐れず色々なことを体験させながら育成することが大切である。

④ 全体会

- ・台風接近により足の確保が危ぶまれたため、交通機関のダイヤを見極めながら各県が解散したため、日程の中に全体会の時間が確保できなかった。
- ・課題として周到な準備と次世代のリーダーの育成が望まれる。

【リーダー育成担当者から見た研究大会の成果】

- ・団員は、リーダー会についての意識が芽生えたり、リーダー会の活動にどのような関わりを持ち活動をしていけば良いのか理解できたように思う。
- ・団員を確保し、大学まではリーダーとして残ってくれる人材育成を心掛けなければならない。そのための環境作りが必要になる。
- ・機会あるごとに研修する場を作つてやる等、情報交換の必要性やP R の必要性を感じた。